



「平和を願って」

尾石 翠

「花と平和のミュージアム」は2009年恵泉女学園創立80周年を迎えるにあたって記念事業の1つとして設置・準備され2014年11月に南野キャンパスでオープニングセレモニーが開催され、私も同窓会から出席しました。神と人にとしえ平和のために貢献できる女性の育成を使命とし教育資源を継承し、研究を深め広く平和を求めての活動がなされています。2016年3月、世田谷キャンパス史料室のご協力のもとに開催した「ボランティア養成講座事前勉強会」では、恵泉創立の時から年月がたつとともに河井道先生の近くにいらした先生、先輩方々のお話を伺うことが難しくなっていく中、恵泉スピリットが正しく受け継がれ、次世代へと伝えられていくことの大切さを学びました。

2012年バラ園は「花と平和のミュージアム」の一環として学園と同窓会の協働で南野キャンパスにつくり始められ、その後野生種のバラ園としてKeisen Wild Rose Garden と名づけられました。春、秋の野村和子先生の講演会では「世界のバラの歴史・育て方・品種」等についての貴重なお話のあとバラ園の見学がありました。当初荒れた土地を耕し石拾い、草取りなど額に汗し、教職員の方々、同窓会、公開講座の受講生の貴いお働きで植えられたバラの苗木は現在大きく成長し花々を咲かせています。

2017年12月、大学の講師川崎哲先生が国際運営委員を務める「核兵器廃絶国際キャンペーン」(ICAN)がノーベル平和賞を受賞されました。恵泉女学園大学でも有志で授与式への被爆者参加を応援する募金キャンペーンがおこなわれることを同窓会にも伝えました。「平和を実現する人々は幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」(マタイ福音書5章9節)の聖句が思われます。河井先生の播かれた種が実っていることに喜びを感じ、この三年間「花と平和のミュージアム実務委員会」の一人として身を置けたことに感謝し、これからも自らの心の内に平和をまた世界の平和を願います。

(前同窓会副会長)

「川崎・オスロ・被爆者キャンペーン」報告

上村 英明

「川崎・オスロ・被爆者キャンペーン」は、2017年10月23日～11月30日に行われた実行委員会を中心とする募金活動で、恵泉女学園大学、多摩市、そして本学園ミュージアムが共催団体となった。

発端は、2017年10月6日に、2017年度のノーベル平和賞に、国際NGO「核兵器廃絶国際キャンペーン」(ICAN)が決まったことである。本学で、長年講師として核・軍縮問題などを教えてきた川崎哲先生は、ピースボートの共同代表として、ICANの創設以来の中心メンバーであり、12月10日にオスロで開催される授賞式への出席も決まった。受賞は、ICANが尽力した「核兵器禁止条約」の同年7月国連総会での採択が背景にある。

大学としては、川崎先生に花束や記念講義が常道であったが、先生の希望を尊重する形で、授賞式に多くの被爆者・核実験被害者の参加を支援する募金キャンペーンが構想された。本学では、大学院生や学生の、またICANの加盟団体である「平和首長会議」のメンバーでもある多摩市の協力を得て、実質1か月の募金運動が開始された。

11月5日に大日向雅美学長、阿部裕行市長、川崎先生同席の下、学内で記者会見を行い、広く社会にキャンペーンの意味を訴えた。当初、日本からの被爆者2名の渡航費など120万円の目標を立てたが、11月30日に募金を締切り、12月6日に同じく学内で報告記者会見を開催した時には、募金金額は551万3229円に達した。予定を上回った金額は、ICANを通して、マーシャル諸島、カザフスタン、豪州など世界各地からの核被害者の授賞式参加やその支援費用(サーロー節子さんは車いすを使用)などに充てられた。



世田谷キャンパスでのICANのノーベル賞受賞と「川崎・オスロ・被爆者キャンペーン」の展示。



12月10日に行われた平和賞授賞式の模様は多くのメディアでも紹介され、「核兵器禁止条約」を前進させるための大きな力となったし、残念ながら日本政府は消極的だったものの、「被爆国」日本の市民社会の積極的責務を果たすことができたように思われる。翌2018年1月24日には、キャンペーンの支援でオスロに参加した日本被団協の田中熙巳さん、藤森俊希さんを多摩市に招き、阿部市長、川崎先生同席でオスロ・被爆者・キャンペーン報告会も行われた。

核兵器廃絶に向けての重要な機会に、運動の真の当事者である被爆者のグローバルな参加を支援できたことは、国際平和を理念とする本学や本ミュージアムにとっても貴重な活動だったと思われる。尚、恵泉中学・高校からもキャンペーン説明の機会や支援をいただいたことを感謝とともに記しておきたい。

(花と平和のミュージアム実務委員会委員、平和文化研究所所長)

「福島菊次郎と誰だったのか～写真と遺品から見える人柄」

高橋清貴

今年のスプリングフェスティバルでは、ミュージアムが保管する福島菊次郎の写真パネルを、少し工夫を加えて展示します。「殺すな／殺されるな」という貫いた姿勢から国家権力の「嘘」を記録し続けてきた福島菊次郎さん。彼のモノクロ写真は、戦後ニッポンを徹底したリアリズムで見つめ、責任ある記録者として時代を鋭く切り取ったもので有無も言わせぬ圧倒的な迫力を持って観る者に迫ってきます。しかし、そうした生と暴力が剥き出しとなった写真の一方で、パネルには子どもの笑顔や生き生きと躍動する動物を撮ったものもあり、パネル全部を観るとそのコントラストに不思議と心引かれるものがあります。徹底した記録者であろうとしたジャーナリストの顔と誰よりも子どもと生き物が好きだった愛すべき一人の父親という二つの顔の共存が、福島菊次郎という存在を魅力的にさせていることに間違いはありません。福島さんに実際に会って、その人柄に触れてから、福島さんの写真のファンになった人々も実は少なくないという事実も頷けます。

今回の企画展示は、そうした福島菊次郎の人柄を少しでも感じてもらうことをねらいとしています。その工夫として、福島さんと縁があった方々に「お薦めパネル」を一枚選び、解説して頂くことを考えています。なぜ、その一枚が好きなのか、福島さんとどんな出会いがあり、福島さんに引きつけられた理由は何なのか。福島さんに近い方々による写真の解説を通して、生前の福島さんの実像を少しでも浮かび上がらせたいということです。

もう一つの工夫は、ミュージアムが保管している福島さんが最晩年を過ごした山口県柳井市のアパートに残された遺品の展示です。遺品の中には写真集の校正原稿や彼が自分でつくったミニ本などもあります。ミュージアムでは現在、研究活動として、彼の遺品とエピソードのアーカイブ化作業を進めている途中ですが、今回はその中から数点を選び、展示致します。選ばれたパネルと遺品、そして近しかった方々の言葉から、福島さんの優しさや面白さを少しでも感じてもらえれば企画は成功です。ぜひ、足をお運び下さい。

(花と平和のミュージアム実務委員会委員 国際社会学科教員)

☆豊田直巳写真展「フクシマの7年間～尊厳の記録と記憶」

全国巡回写真展とともに「恵泉と福島」も振り返ります。

会場：南野キャンパス・ラーニングコモンズ

開催期間：2018年5月22日(火)～6月1日(金) (日曜は除く) \*ギャラリートークあり(5月26日のみ)

☆映画上映「遺言 原発さえなければ」(野田雅也・豊田直巳共同監督 2013年制作)

野田雅也氏、豊田直己氏は、ともに東日本大震災の翌日より福島に入り、3年間にわたる取材を重ねました。

その250時間を3時間45分に凝縮したドキュメンタリー作品です。

会場：南野キャンパス・ラーニングコモンズ 小展示室

上映時間：前半 10:30～12:30 後半 13:00～15:00 \*映画終了後に監督のフリートークあり。

☆福島菊次郎写真展「福島菊次郎とは誰か」 会場：G202教室

☆武田美通「鉄の造形」作品展「戦死者からのメッセージ」(花と平和のミュージアム・平和文化研究所共催)

昨年のスプリングフェスティバルの恵泉での初公開、恵泉祭での展示でも沢山のご来場をいただいた「鉄の造形」展です。

戦死者たちの声がきこえますか、涙が見えますか？

会場：南野キャンパス・常設展示室

☆河井道展示 — 「世界」を仕事場として—

スクラップブック、トランクなどの遺品、写真などにより旅の足跡を振り返ります。

会場：A棟エントランスホール(スクールバス停入り)



「花と平和のミュージアム」活動記録

2017年

8月

「角田菓子ポタニカルアート移動展」多摩市立グリーンライブセンター(GLC)

「スカシユリ」展示

「角田菓子ポタニカルアート移動展@世田谷キャンパス」

「ヤブツバキ」展示

9月

「角田菓子ポタニカルアート移動展」(GLC)「レンゲツツジ」展示

図書館入口展示ケース内に「ペニドウダン」展示

10月

図書館入口展示ケース内に古典籍『両地秋』『松葉蘭譜』『草木錦葉集』

「橘品類考」展示

「角田菓子ポタニカルアート移動展」(GLC)「キキョウ」展示

10月5日Keisen Wild Rose Garden 特別講演会

「庭園におけるバラいまむかし」(講師：野村和子氏NPOバラ文化研究所理事)

10月7日「多摩キャンパスオープンガーデン」(主催)

10月30日(～11月30日)

「川崎・オスロ・被爆者キャンペーン」(協賛)

11月「角田菓子ポタニカルアート移動展」(GLC)「ヤブツバキ」展示

11月4,5日恵泉祭

「鉄の造形 武田美通展 全30作品展示」

「福島菊次郎写真展 平和を愛する、反骨の報道写真家」

12月

図書館入口展示ケース内にポタニカルアート「ヒメサザンカ」および同窓生

寄贈図書『萬花図鑑』(全8巻)展示

12月8日武田美通作品についての取材(東京民報社)

12月19日福島菊次郎写真パネル保管契約取り交わし調印式

2018年

1月

「角田菓子ポタニカルアート移動展」(GLC)「ヒメサザンカ」展示

図書館入口展示ケース内に「ノイバラ」展示

1月13日古典籍『農業全書』を高校生の授業のために世田谷キャンパスに約2

週間貸出し

1月24日

「オスロ・被爆者・キャンペーン報告会」(於：多摩市関戸公民館)(共催)

2月

「角田菓子ポタニカルアート移動展」(GLC)「ユキツバキ」展示

2月28日武田美通鉄の造形見学者(団体1、個人1)

3月

「角田菓子ポタニカルアート移動展」(GLC)「ノイバラ」展示

3月3日「多摩キャンパスオープンガーデン」(主催)



2017年10月、辻永著『萬花図鑑』全8巻が恵泉の卒業生中村孝子さん(園芸科18回)より「花と平和のミュージアム」に寄贈されました。母方の御祖父が購入されたものです。祖父・母・娘と80年以上上の間大切に受け渡された本がこのたびミュージアムの「たからもの」の一つとなりました。